

アスパラガスは種子消毒してから播種しましょう

【1 アスパラガスの種子伝染病と対策】

- (1)アスパラガスの市販品種において、アスパラガス株腐病（病原菌：*Fusarium proliferatum*）および同立枯病（*Fusarium oxysporum*）汚染種子の流通が確認されました（図1）。
- (2)このような種子は、育苗期発病による苗の枯死や、圃場での生育不良、株落ちの原因となります（図2）。
- (3)ベノミル・チウラム水和剤（商品名：ベンレート T 水和剤）の種子粉衣により、両病害原因菌の種子保菌率を低減できるので、無消毒の種子を購入する場合は、予防措置として、本剤の種子粉衣処理を必ず実施してください（図3）。

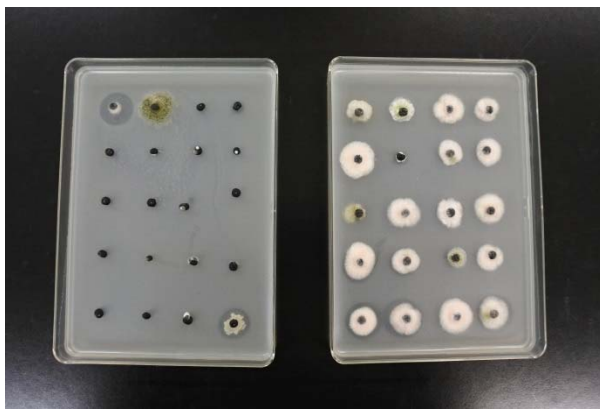


図1 市販種子のフザリウム属菌保菌状況（左：病原菌無保菌種子、右：高度汚染種子）



図2 生育不良株、株落ち多発圃場（2017.8.10）

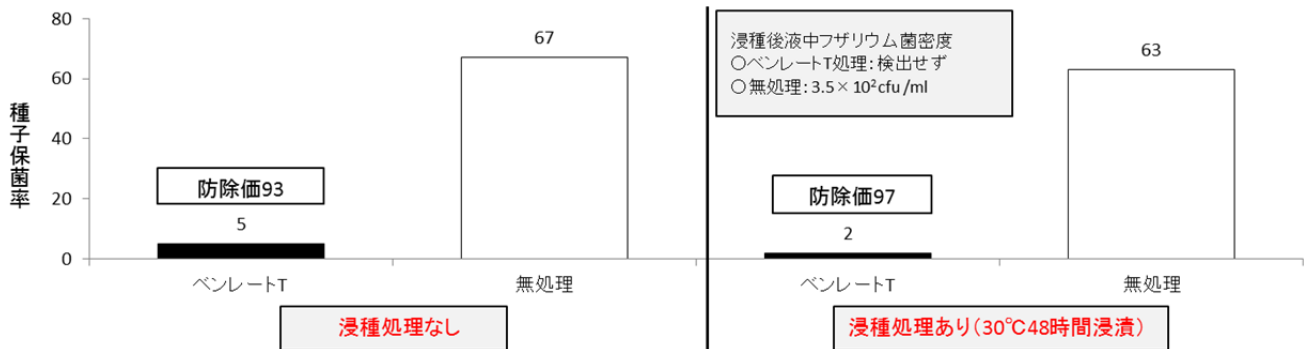


図3 ベノミル・チウラム水和剤の種子粉衣処理による保菌率の低減効果

【2 留意事項】

- (1)両病害は土壌伝染性病害でもあるため、一旦発病すると圃場全面が汚染されます。圃場での多発生が認められた場合は、圃場転換もしくは土壌消毒が必要です。
- (3)ベノミル・チウラム水和剤は、「野菜類」に農薬登録となっています。農薬選択の際には、使用前に必ずラベルを確認し、使用基準を遵守してください。
- (4)茎や地際部組織に褐変を伴う生育不良が認められた苗は、アスパラガス株腐病および立枯病感染の恐れがあるので、本圃への定植は避けてください。